

民医連・全国はひとつ・連携して診察にあたる



群馬民医連 埼玉民医連 鹿児島民医連  
避難者830人に声をかける

3月15日午前、群馬民医連医師、鈴木諭、飯島研史、佐野康太、看護師大淵千鶴、戸丸悟志、埼玉民医連事務、高橋卓哉、鹿児島民医連看護師、前田智子さんは、東豊中（避難者400人）多賀城東小（同380人）、武道館（同50人）を診察して回りました。3チームに分かれ、ブロックごとに全員に声をかけて回る姿は、坂病院で何年も前から診察していたかのように連携がとれ、診察を受けている人も坂のお医者さんと思っ

ていたようでした。地震の前に怪我して傷をそのままにしていた人は、悪化する可能性があり、すぐに坂病院に行きました。避難所生活で眠れない人も多く、電気がなかったためにほ乳瓶が消毒できなくて不安と訴える若いおかあさんも。避難所までできてくれてありがたいという人もいました。ストレスも含め胃薬が欲しいという人がいたという感想が医師から寄せられました。

連携して包帯の交換を行う群馬民医連医師チーム

多賀城東小の時計は地震発生2時45分を指したまま(写真右上)



ズバリ！食糧・水・ガソリンが足りません

TBCテレビ「みのもんた朝ズバ」の生放送で、坂総合病院の今田隆一院長が、地震による病院の状況について取材を受けました。放送は9時40分から、みのもんた氏とのやり取りの中で、「診療、生活基盤ともに破壊されているのが大きな問題。現在、食糧、水、ガソリンが不足している。また、間もなく患者さんのための酸素が無くなるのが大きな不安」と窮状を訴えました。

藤末民医連会長が激励に訪れる

3月14日夕方、全日本民医連の藤末衛会長が、災害対策本部を訪れ、不眠不休で頑張る職員を激励しました。

阪神・淡路大地震のときとの大きな違いは、津波の被害があったこと。このような困難なときでも被災地にしっかり出かけること。坂病院を守り、地域（避難所）を守ること。そのために全日本の総力をあげて応援体制を組みたい。みんなで力を合わせて頑張らしましょう！と話されました。

見知らぬ婦人からカンパ(長野)

長野民医連窪田耕介さんが、松本で災害支援車両に給油をしているとき、見知らないご婦人からこえをかけられ、これから宮城県へ地震後の支援に出かけることなどを話していたら、5千円のカンパを頂き、大変感激したと話してくれました。

支援物資を受け付けている担当者からは、支援物資の箱に、物品名がきれいに書かれていて、受け取る人が混乱しないように、温かい配慮が感じられ、とても嬉しかったと話していました。

トリアージ	累計
黒	10
赤	98
黄	314
緑	300
小計	722
処方外来	507
合計	1229
救急搬入	101
入院治療	127

坂総合病院  
3月15日現在

全国支援 3月15日午後5時現在 20県連から202人